

<2019年度 ハローオリンピック事業>  
**オリンピック教室**

**実施報告書**

**神奈川県 横浜市立横浜吉田中学校**





## 「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目  
運動の時間 (50分)



2時限目  
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

### 座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



# 実施内容

■期 日：2019年5月27日（月）

■ク ラ ス：2年1組（37名）、2年2組（36名）

■オリンピアン：勅使川原 郁恵 先生（スケート／ショートトラック）【出場オリンピック／長野大会、ソルトレークシティー大会、トリノ大会】

■授業のながれ：運動の時間（3時限、5時限）

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、オリンピックやオリンピックバリュー（エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト）について考えながら、運動の時間は協力しあって楽しく体を動かしてほしいと伝えた。
- ・ダイナミックストレッチ等やショートトラックスピードスケートのコーナーを回る際の動きを見本を見ながら実施し、体の傾きを体感した。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



- ・6班に分かれ、10m程のロープで輪を作り、その周りを走るショートトラックスピードスケートリレーを実施。各回実施前に作戦タイムを設け、早くゴールするためにはどのようにしたらよいかを班毎に話し合った。

## 4. まとめ



- ・改めて3つのオリンピックバリューに触れ、エクセレンス、フレンドシップ、リスペクトについて、運動の時間で、頑張って次を目指そうとする姿勢や思いやりを持ちながら、ルールを守って頑張ってくれた行動がオリンピックバリューに当てはまっていた。これらは運動以外でも大事なことであり、今日やったことを思いだしてほしいと伝え、授業終了。

## ■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

### 1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・現役時代に使用していたスケート靴を披露した後、映像を見せながら自己紹介。オリンピックシンボルやクーベルタンについて説明。
- ・オリンピックバリューについて、自身の経験を踏まえエクセレンス「卓越」「一生懸命頑張る」「諦めない」「努力する」「ベストを尽くす」、フレンドシップ「友情」「お互いを理解する」「仲間」、リスペクト「敬意、尊重」「感謝」と伝える。

### 2. オリンピックの価値を伝える



### 3. グループワーク



- 発問：合唱祭を成功させるために取り組むべきことを、オリンピックバリューに当てはめて書き出してみよう。
- 発表：「一人一人が大きな声で歌う」「自分が今できることを全て行う」(エクセレンス)  
 「仲間と全力で楽しむ」「全員が協力する」「お互いを理解して団結する」(フレンドシップ)  
 「このメンバーで取り組めることに感謝をする」「支えてくれる人に感謝の気持ちを持ちながら取り組む」(リスペクト)

### 4. まとめ



- ・これからの生活でどんな場面でもオリンピックバリューは当てはまる重要なキーワードであり、意識することで成長できる。オリンピックバリューを大切に、これからも頑張りたいと伝え、授業終了。



# 実 施 内 容

■期 日 : 2019年5月28日 (火)

■ク ラ ス : 2年3組 (36名)、2年4組 (35名)

■オリンピアン : 長岡 千里 先生 (ボブスレー) 【出場オリンピック/トリノ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、オリンピックバリュー (エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト) を座学の時間に活かせるようにゲームを通して伝えていきたい、と目的を確認。
- ・準備体操として、ストレッチ等を実施した後、そり競技 (ボブスレー、リュージュ、スケルトン) の姿勢を体験した。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



- ・8の字跳びを90秒×全3回実施。2班ずつ3チームに分かれて、引っ掛かっても続きから回数を数える。
- ・チームでどのようなことを考えたかの意識、気持ちが大切で勝ち負けではなく、仲間と一緒に取り組んだことが大事と伝えた。

## 4. まとめ



- ・運動の時間で、8の字跳びに臨んだ気持ちはオリンピックバリューにつながっていることを次の座学の時間で紐解いていく。これはオリンピックだけでなく、学校生活や日常生活等にもつながっており、体験して実感し学んでほしいと予告し、授業終了。



## ■授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

### 1. 自己紹介と授業の目的を確認



### 2. オリンピックの価値を伝える



- ・映像やスライド等でボブスレー競技の説明やトリノ大会の様子、開会式について説明。
- ・自身のオリンピックバリューについて、フレンドシップ「友情」「理解し合い仲間になる」、リスペクト「敬意/尊重」「相手を想う」「仲間を大切にする」、エクセレンス「卓越」「ベストを尽くし頑張る心」と伝える。

### 3. グループワーク



- 発問①：チームで話し合ったこと、作戦や工夫したことを書き出してみよう。  
 発表①：「縄を跳ぶ順番を考えた」「回す人を変えた」「目標を高くもった」(エクセレンス)、  
 「声を掛け合った」「チーム1人ひとりの気持ちを大切にした」(フレンドシップ)、「引っかけなくても皆笑顔で対応した」(リスペクト)  
 発問②：話し合った結果を受けて、自分が感じたことを書き出してみよう。  
 発表②：「作戦を色々立てたが記録が伸びず悔しかった」「前向きに頑張ることができた」(エクセレンス)、「協力と声かけが大切だとわかった」  
 「皆と話し合い楽しくできたのが良かった」(フレンドシップ)、「引っかけなくてもドンマイ」(リスペクト)

### 4. まとめ



- ・運動の時間を振り返り、一人一人の努力や意識の変化で結果につなげられチームワークが生まれた。勝負の結果よりも、全力を尽くそうとする気持ちが大切であり、それは今後の人生においても同じだと伝える。
- ・心の中に興味の柱をたくさん立て、悩んだ時は信頼のおける友人に相談し、目標に向かって挑戦を続けてほしいと伝え、授業終了。



■ 集合写真  
2年1組



2年2組



■ 集合写真  
2年3組



2年4組





■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



■ 修了書贈呈

